

極
祕

戰訓報第五十六號

對 M₁ 重 戰 車 戰 法

昭和二十年六月十八日
大本營陸軍部

緒 言

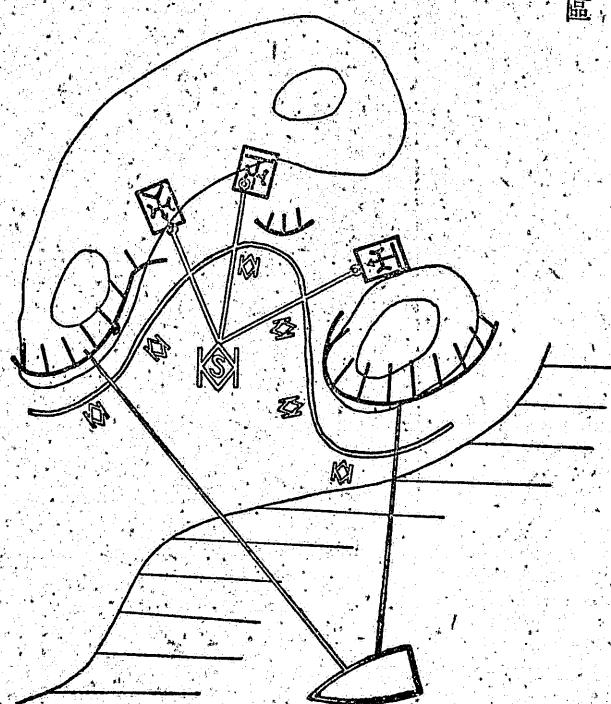
M₁ 重 戰 車 ノ 大 東 亞 戰 場 ニ 現 出 ゼル ハ 島 峴 戰 タル 硫 黃 島、沖 鄄 ニ シテ 其 ノ 數 モ 試 験 的 ニ 極 ク 少 數 フ 使用 ゼル ニ 過 ゲズ 戰 法、用 法 モ 亦 激 刺、機 動 的 ナ ラズ 故 ニ 單 ニ 此 等 ノ 戰 訓 ノ ミ ヲ 以 テ 今 後 ノ 動 向 ヲ 律 スル 能 ハザル モ 取 敗 ズ 本 戰 訓 ヲ 基 礎 ト シテ 對 策 ヲ 講 ブル ヲ 要ス
將 來 M₁ ニ 關 スル 情 報 竝ニ 對 M₁ 戰 法 ニ 新 報 アリ 次 第 急 報 スル ニ トトス

0991

一、敵ノ執ルベキ M1用法、戦法

イ、海岸地帶ノ艦砲ノ威力及バザル地區

0992



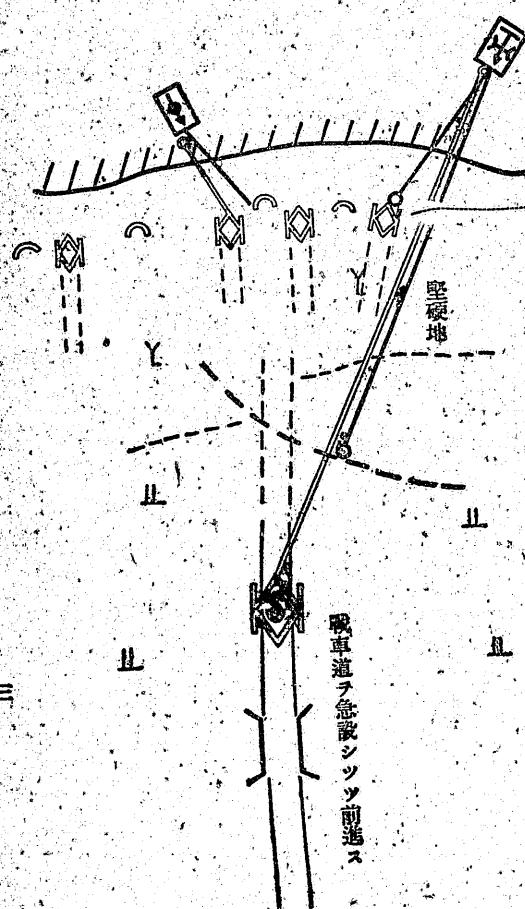
口、内陸主戦場

ハ、地盤堅硬ニシテ M_1 ノ機動シ得ル開豁條件ニ制扼セラルベシ

(註)○ 内地ノ地形特ニ水田、橋梁ハ M_1 ノ通過ヲ許ナザルモノ大部ナリ

○ 空中勢力優勢ニシテ、土工力大ナル敵ハ戦車道ヲ急設シツツ前進スルコトアルベシ特ニ M_1 ノ爲事前ニ
進路設備ヲ行フコト必須ナルベシ

M^4 又ハ水陸兩用戦車



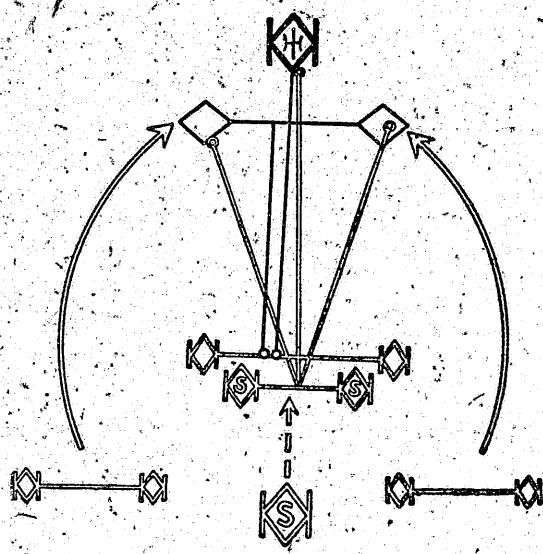
0993

2. 使用目的及數

イ、Mノ後楯トシテ自走砲的ニ用フ

目標ハ主トシテ堅固ナル火砲陣地トシ我ガ對戰車火砲ヲ撲滅シテMノ行動ヲ支援ス

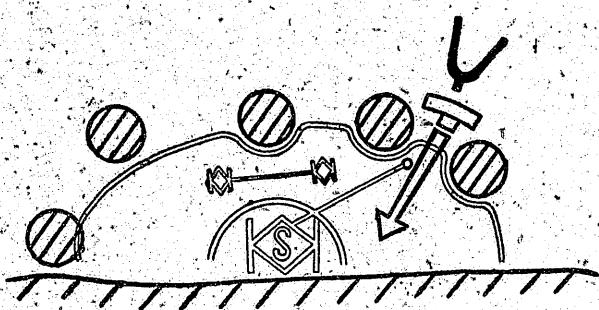
ロ、對戰車戰闘ニ於ケル戰闘力ノ骨幹トシテ數輛ヅツ小群ニ分レ又ハ數十輛ヲ集結シテ用フ



0994

ハ、或ハ我が特攻等ノ艦船攻撃時退避ノ爲艦砲ノ協力ナキコトヲ見越シテ陸上艦トシテ橋頭堡全般ノ核

心タラシム



ニ、正面ノ使用數ハ限定シ得ザルモ一輛ヅツ若クハ三十五輛ヅツノ之ニ數倍スルM₁ニ配シテ用フベシ、

五、

0995

3. 戰法

イ、硫黃島ノ例

- 愛情シテ前ニ出サズ我ガ對戰車火砲ノ威力圈外ヲ行動ス
- 前進ハ極メテ慎重ニシテ有效火力ヲ受クルヤ直チニ退避ス

(註) 機動力ナキニアラズ、必要ニキ爲動カザリシナルベシ

- 電波(音波)探知機ヲ裝備シアルノ情報アルモ確實ナラズ

(註) 1、電探ヨリ音探ノ方ガ可能性大ナリ

車體ニ裝備セズトモ地上ノ候敵警戒網ヲ利用シテ射擊スルコトモ亦可能ナリ

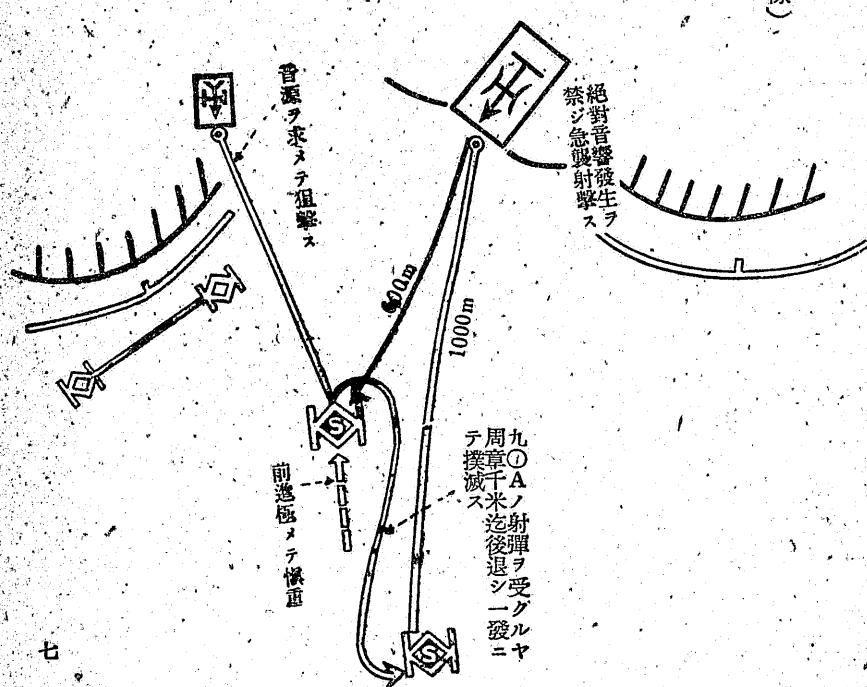
- 射擊精度極メテ良好ナツ(千米ノ距離ヨリ一發ニテ命中セリ)

(註) 携行彈數ハ五十一六十發程度ナルベシ

六

0996

硫黃島例（想像）



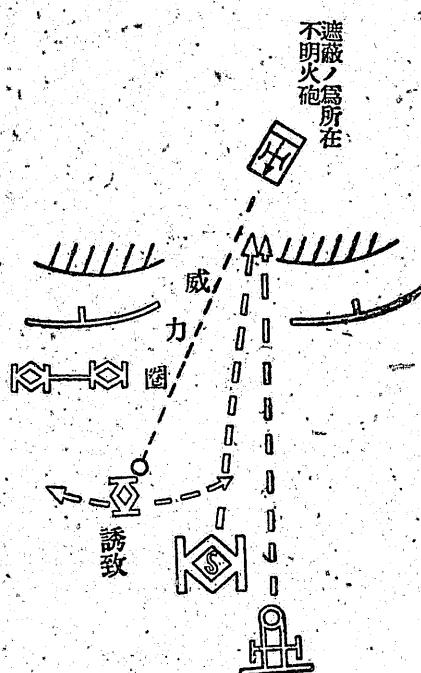
七

0997

○ 敵ノ將來取り得ベキ豫想戦法

○ 機動ハ必要ニ應ジ相當輕快ナラシメ得

○ 我ガ對戰車火砲ノ威力圈前端附近ヲ行動シ我ガ火力ヲ誘致シ他ノ戰車、砲兵ニテ撲滅



- 陣地間隙ヲ隘路突破ノ要領ニテ左右ヲ制壓シツツ突破ス
- 敗モ相當密集使用スルコトヲ豫期スルヲ要ス

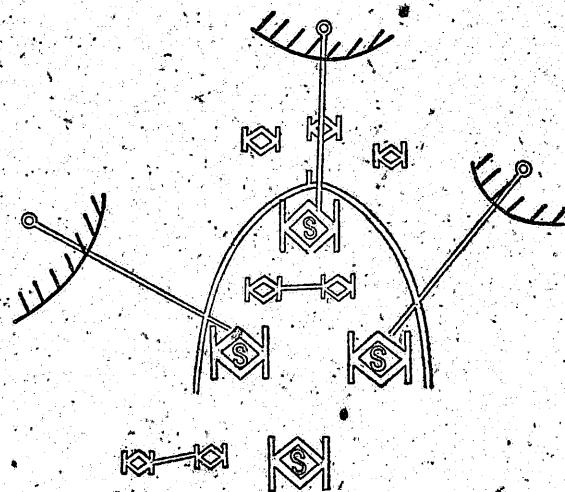
(註) M₁ノ編制ハ明カラザルモ重戰車大隊トシテ獨立シアルモノノ如シ

0998

要旨

二、我ガ對策

イ、對M戰闘法最大ノ惱ミハ「近寄り難キ」ニ在リ



九

0999

口、物量ニ正面衝突スルハ愚ナリ

強キニ匿レ弱キヲ挫キ機ヲ見テ匕首一挾直チニ死命ヲ制スルヲ要ス

(註)1、對戰車一般原則ハ特ニ重複記載セズ

2、戰技的事項ニ關シテハ既配布「M重戰車撲滅」(分隊長懷中用)ニ據ル

3、我が裝備ハ現有一般師團トス

2、要領

イ、全般ニ「絕對成功ヲ期シ得ルトキノ外」ハ

「Mヲ對手トセズ」專ラ步兵及M等ノ擊滅ヲ圖ル

歩兵ヲ擊滅スルカMヲ擊滅スルカニ關シテハ當時有スル對戰車火力ヲ考慮シ若シ對戰車火力少キトキ

ハ步兵擊滅ニ徹底スルヲ可トス然ルトキハMハ逃避ス

口、M撃滅ヲ期スルトキハ

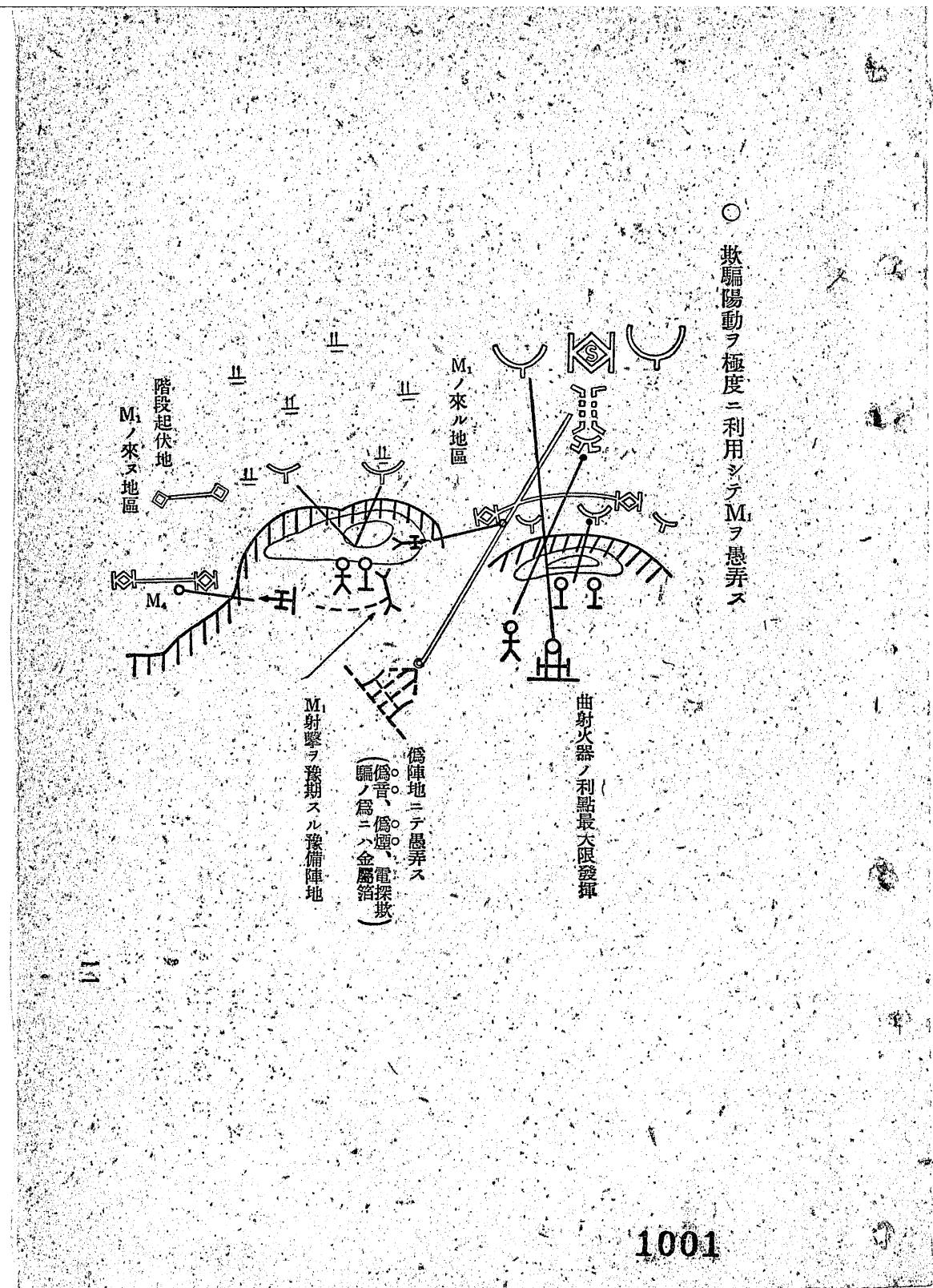
統一セル部署ノ下三周到ニ準備シ一舉全力ヲ傾注シテ必殺ス

3、各個ノ要領

イ、陣地ノ守兵、火砲又ハ一般攻擊部隊ハ

○ Mヲ對手トセズ專ラ步兵、M等ヲ擊滅ス

○ Mモ近接セズ我亦對手トセザレバ自走砲ト變リナシ



1001

(説明)

1、對戰車射撃ハ懸念至近距離ニ至ルヲ待チテ行フヲ原則トス、然ルニ敵ハ容易ニ我ガ有效射距離内ニ近接セズ、隠忍時ヲ空シウシテ M₁一輛ヲ對手トスルヲ利トスルカ機敏ニ立廻リテ M₁ヲ叩キ其ノ間 M₁ノ戰闘力浪費ヲ圖リテ之ヲ無能化シ以テ全般ノ戰況ヲ有利ナラシムルヲ利トスルカ自明ノ理ナルベシ。

2、戰車砲ハ平射ナリ我ヘ地形、工事ヲ利用シ曲射火器ノ活用、瞬間狙擊的ノ側背射ニ依リ M₁ノ手ノツケラレザル如ク戰闘スルヲ要ス(沖繩戰訓)

只、我ガ火砲ノ威力圈内ニ折接セルトキハ

○ 個々ノ戰闘ニ陷ラザル如ク滿ヲ持シテ一舉ニ火力ヲ集中シテ之ヲ擊滅ス

○ 此ノ際

1、各方面同時且一齊ニ

2、各種火力ヲ集中シ

3、偽射(音、煙)等モ同時ニ併用

4、直掩歩兵ヲモ同時ニ完膚ナカラシムル如ク

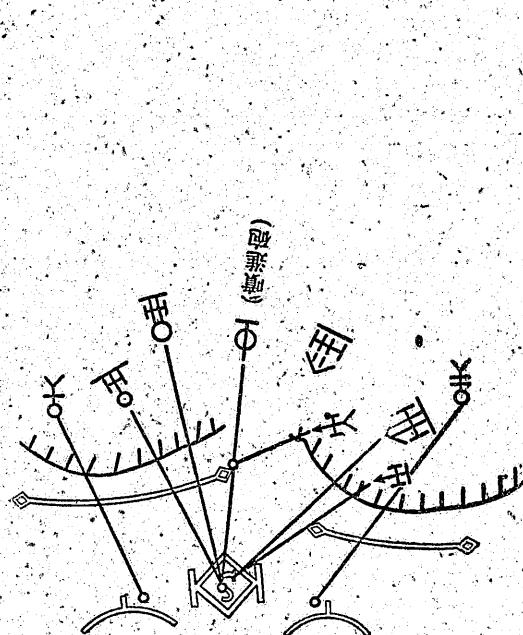
5、至短時間ニ效果ヲ收ムル如ク

射撃シ以テ敵ニ目標捕捉ノ好機ヲ與ヘザルヲ要ス
又敵ノ退避ヲモ考ヘテ射彈ヲ導クヲ要ス

(註) 噴進砲ハ其ノ噴焰ニ依リ敵ノ注意ヲ牽制シテ他火器ノ射撃ヲ祕匿シ得ベシ

○ 同一正面ニ數輛ノ M₁ 在ルトキ全車同時ニ射撃スルカ「車ヅツニ集中スルカハ我ガ兵力ニ依ル
一車ヅツトスルトキハ他ノ M₁ ハ道撃等ニテ目潰シスルヲ可下ス

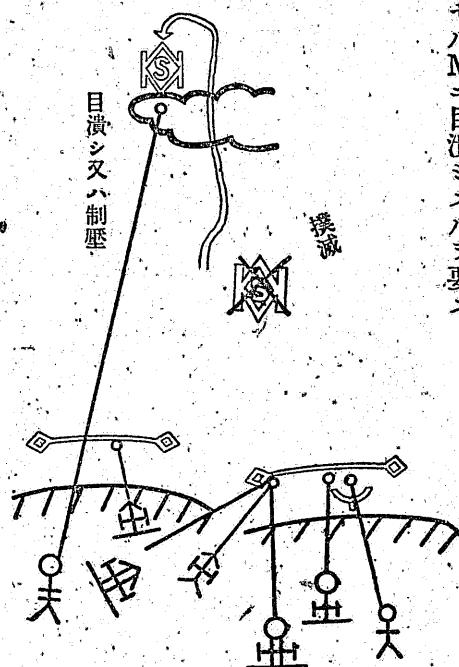
又目標ノ状態ヲ良ク観察シテ集中射彈ノ轉移ヲ巧ニスルヲ要ス



○ M₁ヲ撲滅セルトキ又ハ M₁退避セルトキハ直チニ M₄ニ火力ヲ轉移シテ之ヲ撲滅ス此ノ際煙弾等ヲ以

テ退避セル M_1 ニ目漬シスルヲ要ス

一四



六、敵 M_1 ガ對戰車火砲ノ威力圏外ニ在リテハ射擊セザルヲ本則トスルモ敵ノ傍若無人ノ行動ヲ制スル爲
必要アルトキハ右ト同要領ニ依リ主トシテ遮蔽セル曲射火器ニテ射彈ヲ集中シテ之ヲ制壓ス但シ濫用
ハ不可ナリ

(註)十五糰級以上ノ榴弾又ハ破甲榴弾ハ命中セバ貫徹威力ナキモ震騒效果(乗員ノ脳震盪、電機配線ノ切斷等)、
銃砲軌道部等外部ノ損壞、弛緩等ヲ期待シ得

1004

ニ、挺進攻撃ヲ賞用ス

○ 挺進奇襲

M₁ハ現出地點ヲ後方交通線ニ近ク必ズ補給基點ヲ有シ夜間ハ休宿、整備ヲ實施スベシ我ハM₁ノ歸還方向ヲ確カメ現地ニ就キ挺進部隊ニ其ノ推定位置ヲ示シテ潛入セシムルヲ可トス、薄暮ハ敵ノ攻撃ヨリ防禦ヘノ轉換時機ニシテ心理的ニモ又態勢的ニモ乘ジ易キ利ヲ有ス

○ 反撃二伴フ空進斬込隊ヲ豫メ準備シ敵M₁ノ目標ニ突進シ其ノ退避前ニ攻撃セシム

此ノ際大規模ノ煙ヲ利用シテ紛戦ニ乗ジ得バ有利ナリ

○ 豫メ現出豫想地區ニ伏兵ヲ配置シ好機ヲ捉ヘテ肉攻セシム

(註)地形(通過)判斷及進路開設徵候等ニ依リ現出地區ノ豫想必ズシモ不可能ナラズ

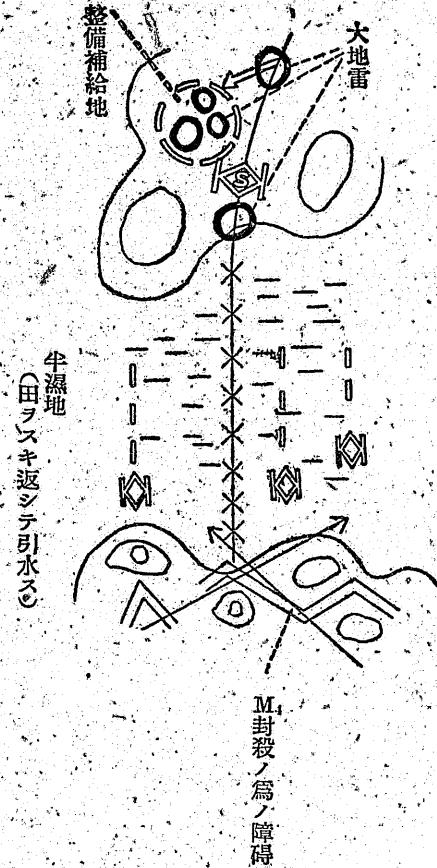
○ 總ジテM₁ハ直掩歩兵多ク又掩體、障礙ヲ設ケ肉攻ニ對スル妨害ハ蓋シ大ナルモノアルベシ少數ヲ以テ潛入スルニ勉ムベキモ又妨害ヲ破壊制壓シテ肉攻ヲ强行シ得ル如ク近戰裝備ヲ強力ニスル必要アリ、特ニ手榴弾、對人爆薬等ヲ多數裝備シ火薬發射器ヲ使用セバ有利ナリ

(註)ちびニ依ル攻撃ハ内部ノ人員ニ對スルノミニシテ當ノM₁ハ全然無疵ナルコトヲ忘ルベカラズ

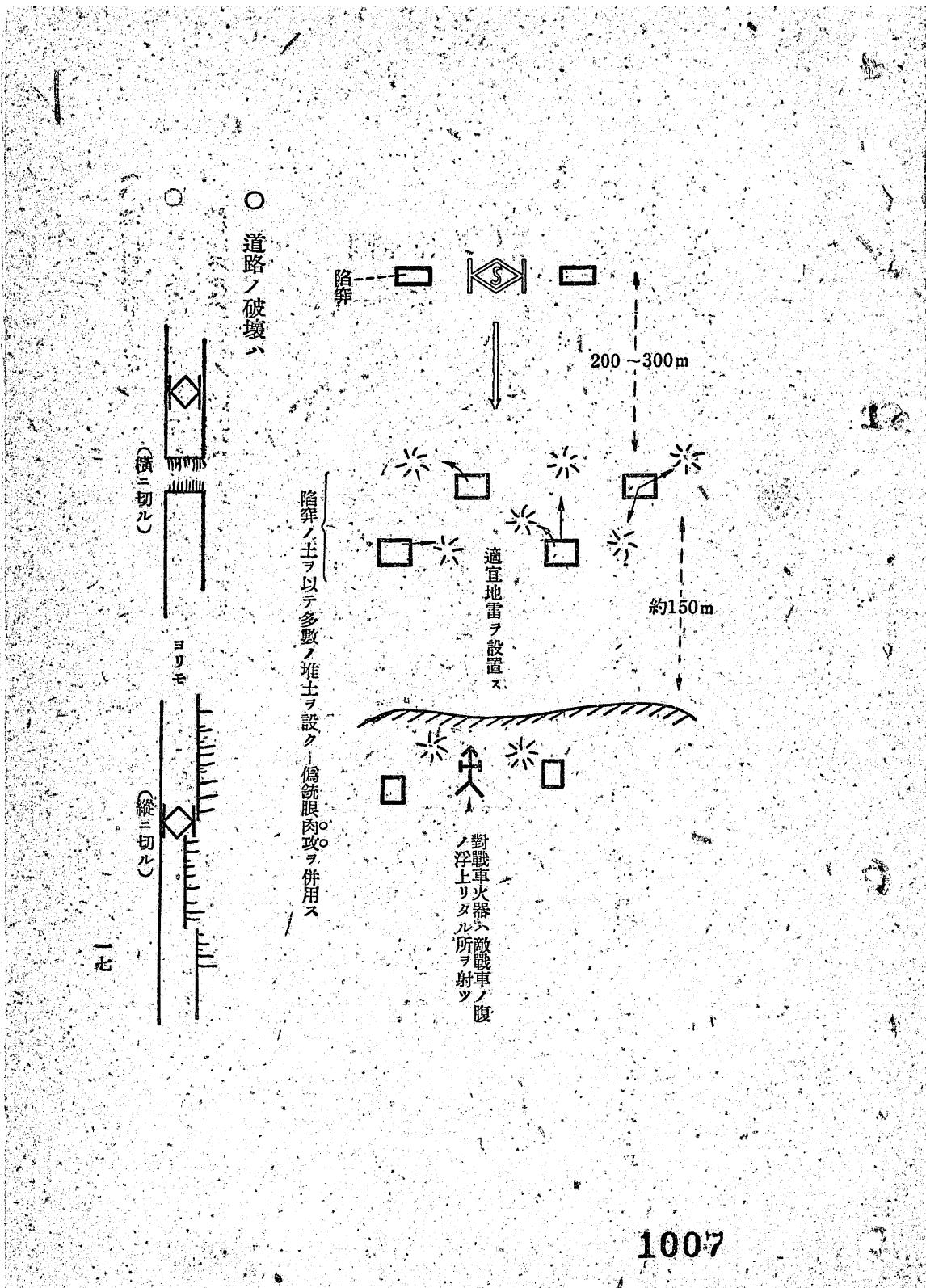
ホ、障、碍

○ 大地雷ハ猛威ヲ發揮ス一旦之ヲ知レル敵ハ極メテ臆病トカルベシ

○ 重戦車ハ地盤弱キヲ最モ障碍ドス
氾濫、水田、湿地其ノ他苟モ水ヲ利用シ得ル地ハ總テ之ヲ廣ク且遠ク用ヒ以テ M₁ヲ遠ク拒止シテ戰鬪力ヲ發揮セシメザルヲ要ス



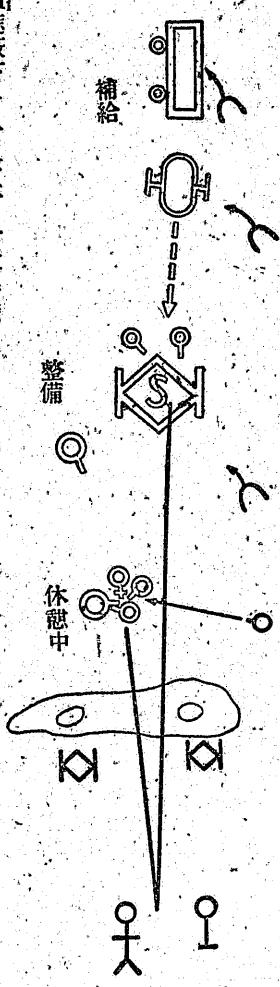
○ 平地ノ一例



1007

整備補給中ヲ擊ツ

○敵ノ乗員下車時ヲ狙ツテ之ヲ殺傷シ又燃彈ノ補給整備ノ爲弱點ヲ呈シアルトキニ攻撃ス又燃彈ヲ
焼燼スルハ爾後ノ戦闘力ニ及ス影響大ナリ



M遮蔽下ニ入ラバ其ノ下車時機ヲ見計ヒテ火力急襲ス

ト、其
ト、他

○M至近距離ニ來ラバ輕火砲、小銃ニテモ效果アリ此ノ際ハ砲身、砲口ニ狙撃彈ヲ集中スルヲ可トス
(其ノ他反射鏡利用ノ展望孔、銃(砲)眼等ニ對シテモ效アリ)

○敵ノ土工重材料ヲ擊滅スルハ敵戰車ノ活動ヲ封ズル一手段ナリ

結言

敵ノ戦闘力ハ M_1 ノミニアラズ特ニ歩、戦、砲、飛ノ統合戦闘力ニ在リ我若シ M_1 ノミニ心ヲ奪バレンガ必ズ
ヤ他ノ部分ヨリ破綻ヲ生ズベシ我ガ戦闘力ノ統合發揮ハ敵ノ如何ナル戦法、兵器ニ對シテモ忽セニシ得ザ
ル問題ニシテ對 M_1 戰法モ此ノ一事ニ要約シ得ベシ

又敵ノ戦法等ヲ固定シテ考フルハ危險ニシテ當時ノ狀況及使用者ノ性格ニ依リ大差アルコトニ注意ヲ要ズ

(附記)

M_1 ト外觀近似スルモノアリ

M_{10} 、 M_{12} 等ノ自走砲之ナリ砲身ノ長キコト其ノ他外觀ハ戰車ト變ラズ且陣前中距離ヲ行動シテ射擊スル
コト多キヲ以テ M_1 ト誤ラザルヲ要ス
(裝甲比較的薄ク M_1 ハ輕戰車級ト同一ナリト謂乙)